



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### イラン：ハッダードアーデル国会議長とムバラク・エジプト大統領の会談 (1月30日-31日付現地 ISNA 及びケイハーン紙)

1月29日-30日、ハッダードアーデル国会議長は、第5回イスラム諸国議会総会に出席するため、エジプトを訪問し、30日ムバラク大統領と会談した。両国のハイレベルでの会談は81年の国交断絶以来26年ぶり。以下は、ハッダードアーデル国会議長の発言。

#### 1. 二国間関係

- (1)(ムバラク大統領との会談は極めて良好であったとし)自分がここ(エジプト)にいるという事実がイラン・エジプト関係改善の証である。米国のイラン・エジプト関係の改善を阻止するための圧力を行使すると一部の者は考えているかもしれないが、ムバラク大統領は、「米国の如何なる圧力も受けることはない。自らの決定はエジプト国民の意志に基づいている」と述べ、また、「米国はイランに軍事介入を行うべきでなく、かかる介入は米国の利益とならないだろう」と述べた。
- (2) 今回の会談では、ムバラク大統領は、「二国間関係の拡大と強化について前向きかつ友好的な見解を有している」と語っていた。また自分もムバラク大統領に対し、様々な分野におけるエジプトとの協力を活性化すべきという自らの見解を表明すると共に、両国の協力、特に経済協力の強化に関するイランの立場を強調した。エジプトとイランは、外交関係の回復を達成するべく自らの意思を具体化しており、両国の関係再開に向け、ゆっくりと、だが、確実に前進している。
- (3)(イラン・エジプトの外交関係再開につき問われ)数週間あるいは数ヶ月後に達成される可能性がある。現時点で、何ら外交関係が存在しないという事実にもかかわらず、あらゆるレベルにおいて双方向の関係が存在する。残りの不明瞭な(両国の)相違は、対話を通じて解消されるはずであり、我々はその相違を解消不可能な障害であるとは考えていない。

#### 2. パレスチナ情勢

(パレスチナとガザの変化、ならびにレバノンとイラク情勢について話し合われたとし)我々はエジプト・イランの関係強化及びイスラム世界の双璧である両者の協力こそが、地域、イスラム世界、そして世界において平和の拡大をもたらすことを強調した。パレスチナの人々に対するエジプトの擁護は、まさにイスラム世界全体がエジプトに期待していることである。ガザの住民は極めて深刻な圧力に直面しており、食料、薬、燃料不足に苦しんでいると報道されている。イランはガザの封鎖解除を希望する。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799